

# 環境モニタリング結果（概要）

令和5年11月

環境省福島地方環境事務所

令和5年11月は、

空間線量率、大気中放射能濃度（Cs-134, Cs-137）、地下水水質、浸出水水質、放流水水質、防災調節池放出水水質等を測定しました。

## 放射能濃度

空間線量率	前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。
大気中放射能濃度	前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。
水質中放射能濃度(地下水、浸出水、放流水、防災調節池放出)	前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。

## その他の項目（地下水）

地下水水質	地下水下流（C-2）で継続してカドミウムとふっ素が環境基準を超過しました。追加調査の結果、これらは自然由来である可能性が高いと思われます。その他は環境基準を超過する値はありませんでした。
-------	---

## その他の項目（浸出水、放流水、防災調節池放出水）

浸出水水質	概ね過去の値の変動範囲内でした。
放流水水質	排水基準を超過する値はありませんでした。
防災調節池放出水	排水基準を超過する値はありませんでした。

埋立処分の周辺環境への影響を把握するため、環境モニタリングを実施しました。

◎：全項目測定（放射能濃度又は空間線量率を含む）

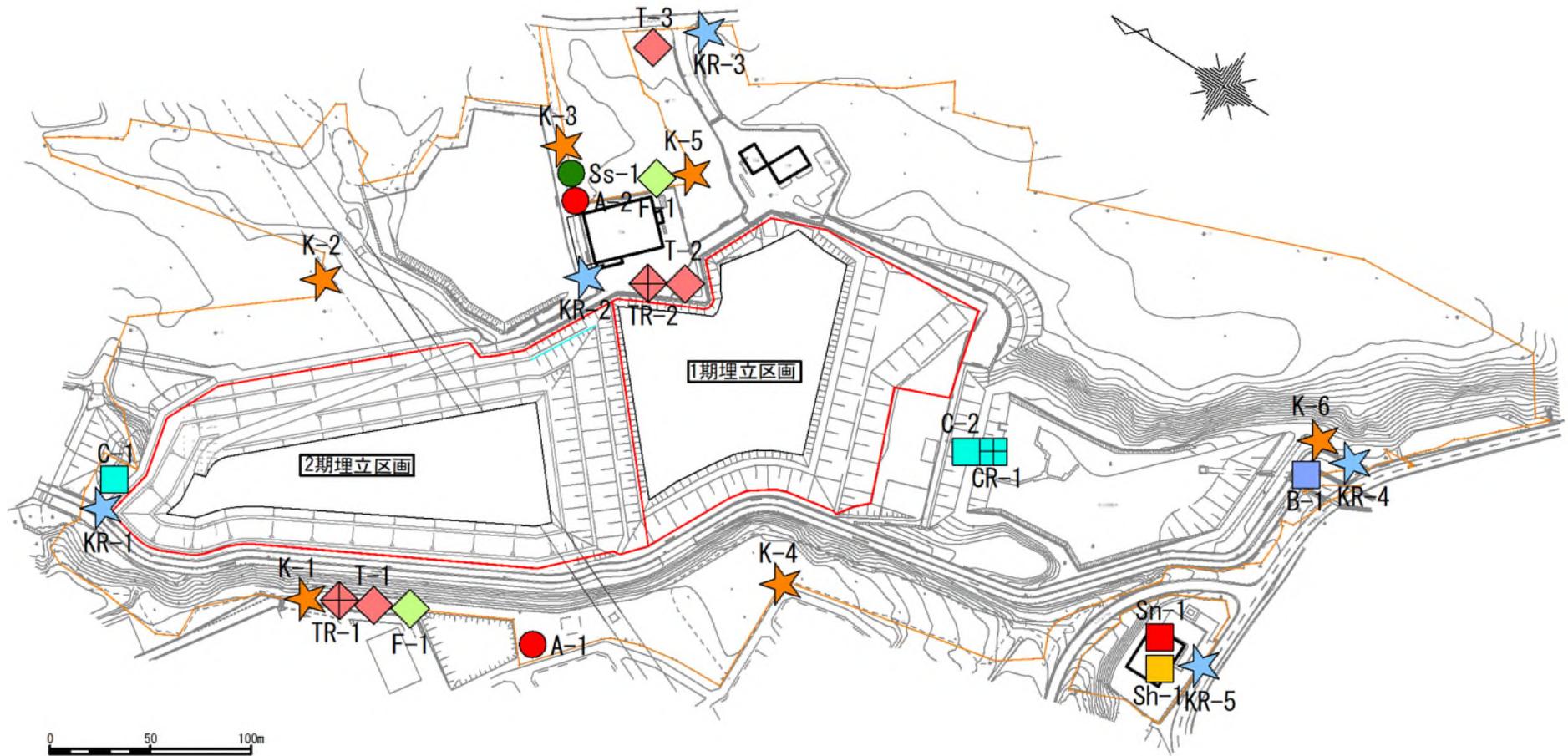
●：一部項目のみ測定

埋立開始

項目※1	埋立開始											
	2023年											2024年
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
空間線量率 (定期モニタリング)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
大気中放射能濃度 (Cs-134, Cs-137)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地下水水質	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●
浸出水水質	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●
放流水水質	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●	●	◎	●
防災調節池放出水水質		◎			◎			◎			◎	

調査地点、結果の概要は次ページ以降参照、その他詳細はホームページ掲載のモニタリングデータを参照ください。

※1 表中に示す項目の他「空間線量率（モニタリングポスト）」、「大気中放射能濃度（α/β線連続測定）」、「地下水水質（放射能濃度連続測定）」、「大気中粉じん（ダイオキシン類）」、「悪臭」及び「騒音振動」のモニタリングを実施していますが、本資料では次ページに調査地点のみを記載しました。



	空間線量率 (定期モニタリング)		地下水水質		防災調節池放出水水質
	空間線量率 (モニタリングポスト)		地下水水質 (放射能濃度連続測定)		悪臭
	大気中放射能濃度 (Cs-134, Cs-137)		浸出水水質		騒音振動
	大気中放射能濃度 ( $\alpha/\beta$ 線連続測定)		放流水水質		粉じん (ダイオキシン類)

- 特定廃棄物を埋立てたことによる影響を把握するため、放射性物質に係る環境モニタリングを実施しています。
- 放射性物質の測定は、空間線量率、大気中放射能濃度、水質（浸出水、放流水、地下水（上流・下流）、防災調節池放出水）が対象になります。
- 埋立開始（令和5年6月1日）の6か月以上前から継続的に環境モニタリングを実施して測定値の変化を見ています。
- 放射性物質の測定は、定期測定以外に連続測定も行っており、連続測定の結果は、以下より確認頂けます。

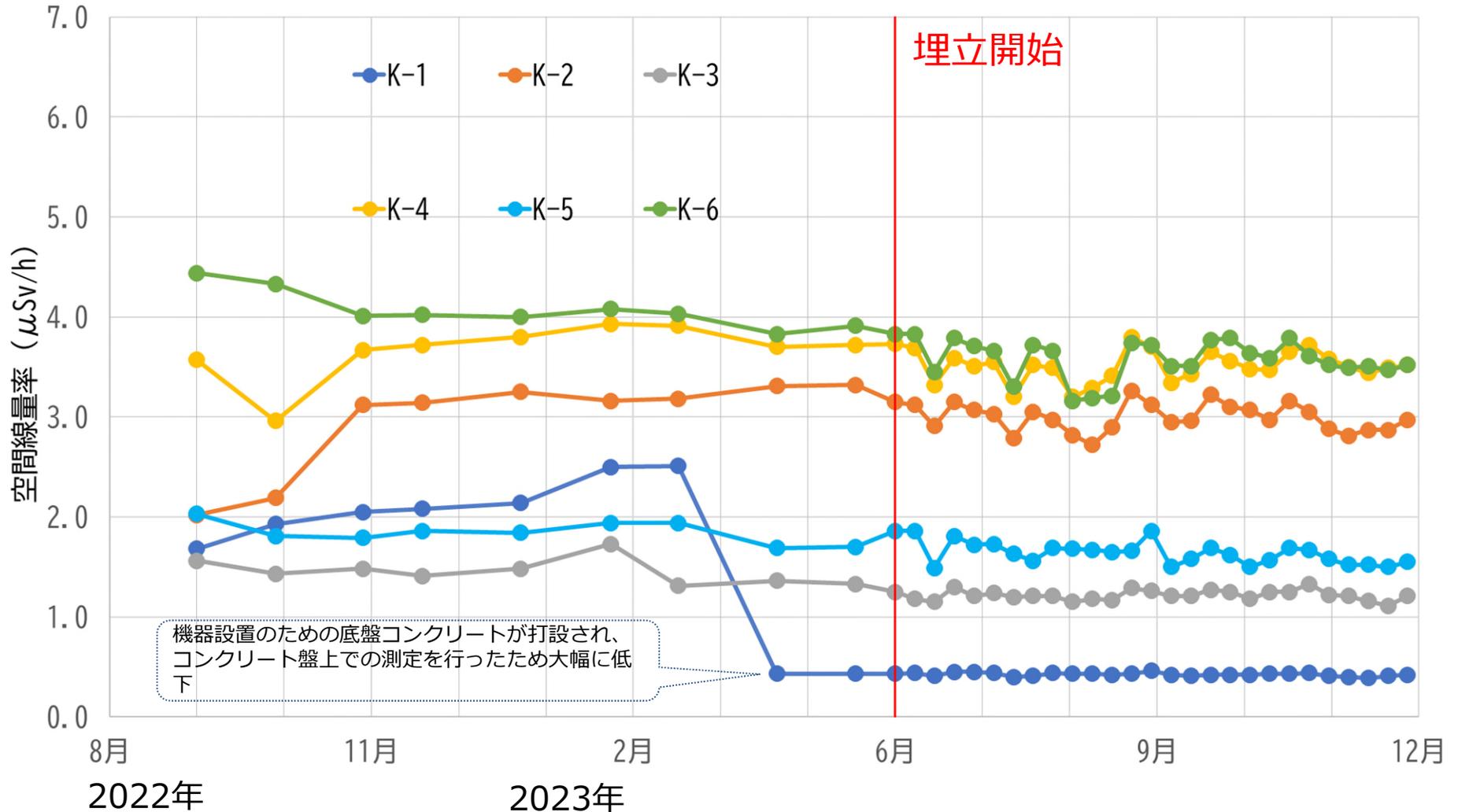
## ■ 連続測定結果

空間線量率：[空間線量率測定結果 \(env.go.jp\)](https://env.go.jp)

大気中放射能濃度：[大気中放射能濃度測定結果 \(env.go.jp\)](https://env.go.jp)

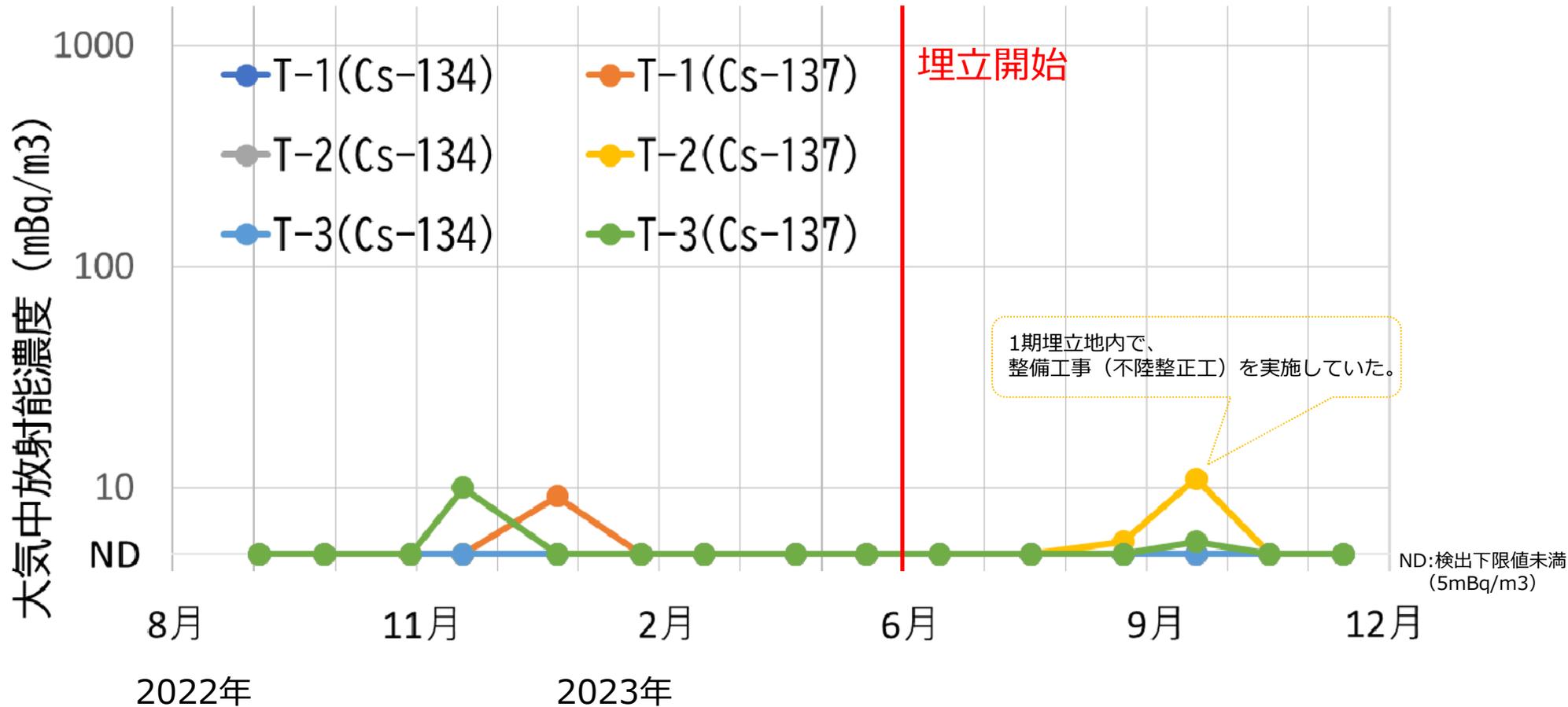
地下水中放射能濃度：[地下水中放射能濃度測定結果 \(env.go.jp\)](https://env.go.jp)

敷地境界の空間線量率を6か所で測定しました。  
前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。



※詳細データはこちらからご確認ください ([敷地境界の空間線量率 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

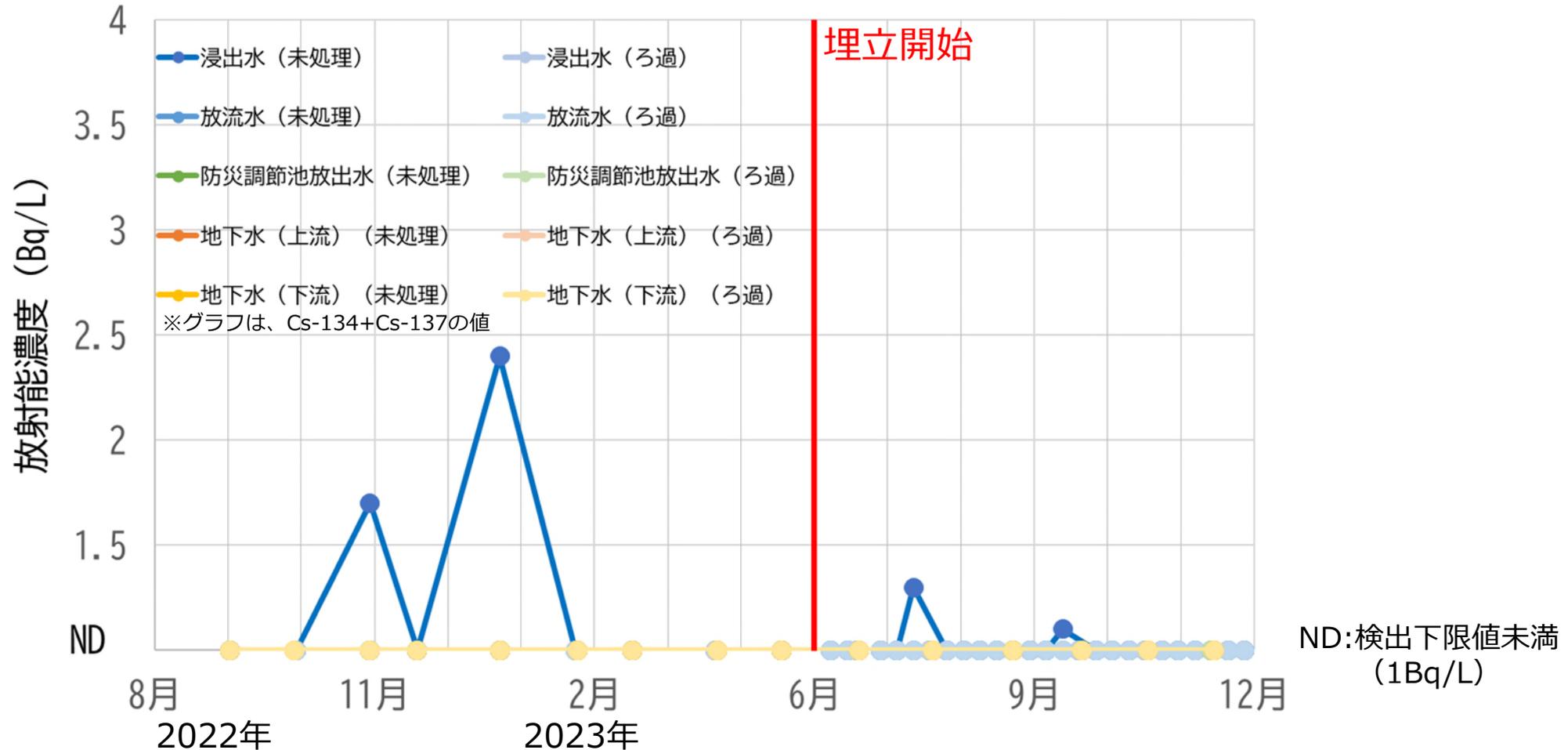
大気中放射能濃度（Cs-134, Cs-137）を3か所で測定しました。  
前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。



※詳細データはこちらからご確認下さい ([大気中放射能濃度測定結果 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

浸出水、放流水、地下水（上流・下流）、防災調節池放出水で測定しました。

前回測定結果から特段の変化は見られませんでした。



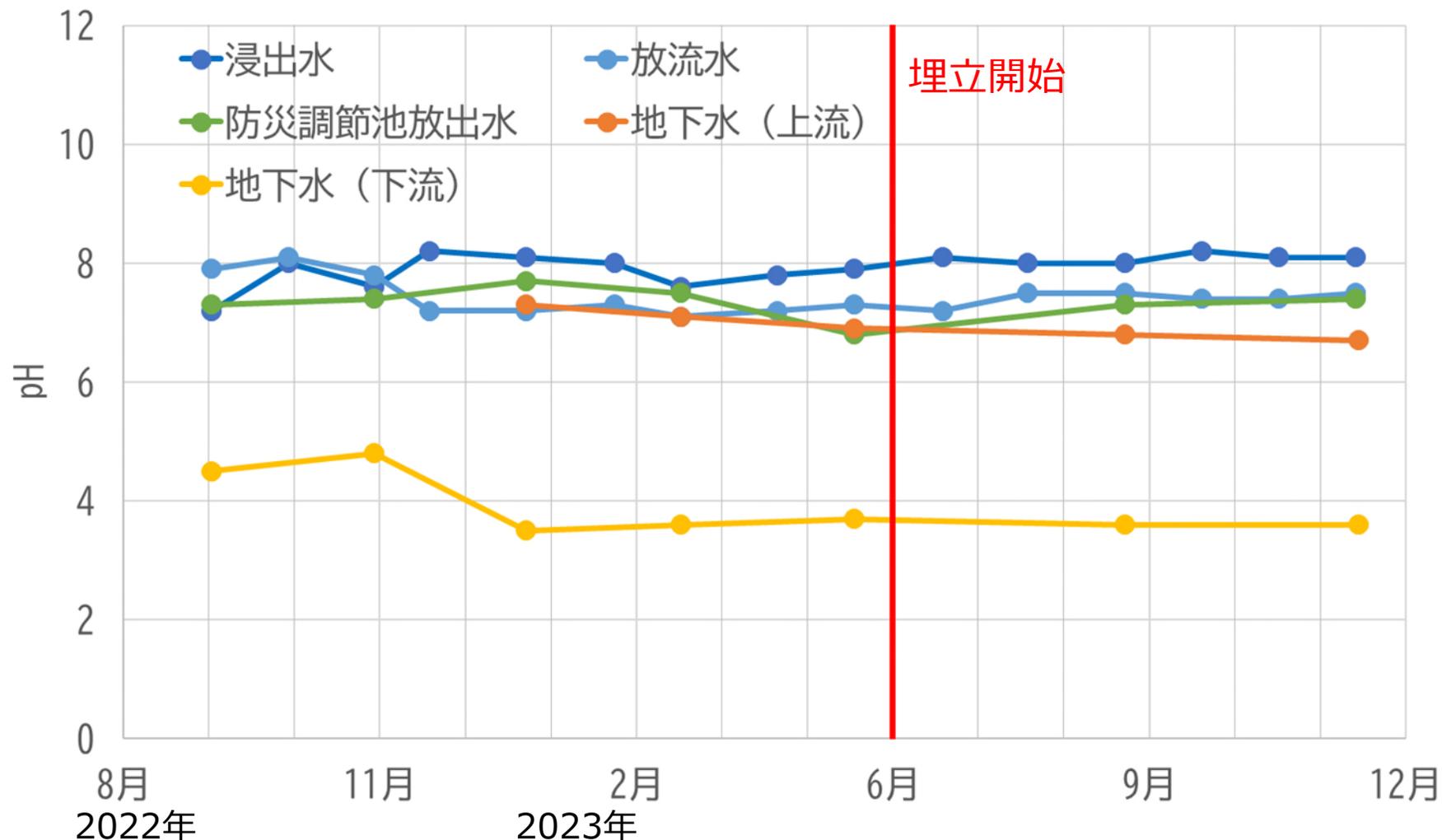
※詳細データはこちらからご確認下さい

([地下水、浸出水、放流水及び防災調節池放出水の放射能濃度 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

- クリーンセンターふたばの周辺環境への影響把握するため、放射性物質以外にも様々な項目について環境モニタリングを実施しています。
- 本資料では、周辺環境への影響の可能性を判断する上で着目すべき項目として、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率（EC）、塩化物イオン、浮遊物質（SS）について取り上げます。

項目	単位	説明
水素イオン濃度 (pH)	—	溶液中の水素イオンの強弱（濃度）を示す尺度です。酸性、アルカリ性の度合を示しています。pH値に異常な変化が認められると水質に何か変化があることがわかります。
電気伝導率 (EC)	mS/m	水溶液の電流を流す能力です。水溶液の電気抵抗の逆数で示します。地下水中に含まれる電解質（イオン）の濃度が高くなれば電気伝導率の値は大きくなります。
塩化物イオン	mg/L	水に溶けている塩化物の量を示したものです。水中で分解されたり、沈殿したりすることなく水中にとどまっているので排水の混入や希釈度の指標として使われます。
浮遊物質 (SS)	mg/L	水に溶けない懸濁性の物質のことです。浮遊物質には無機質のものと有機質のものがあり、数値が大きいほど浮遊物質が多いことを示します。

水素イオン濃度 (pH) は、概ね過去の値の変動範囲内でした。

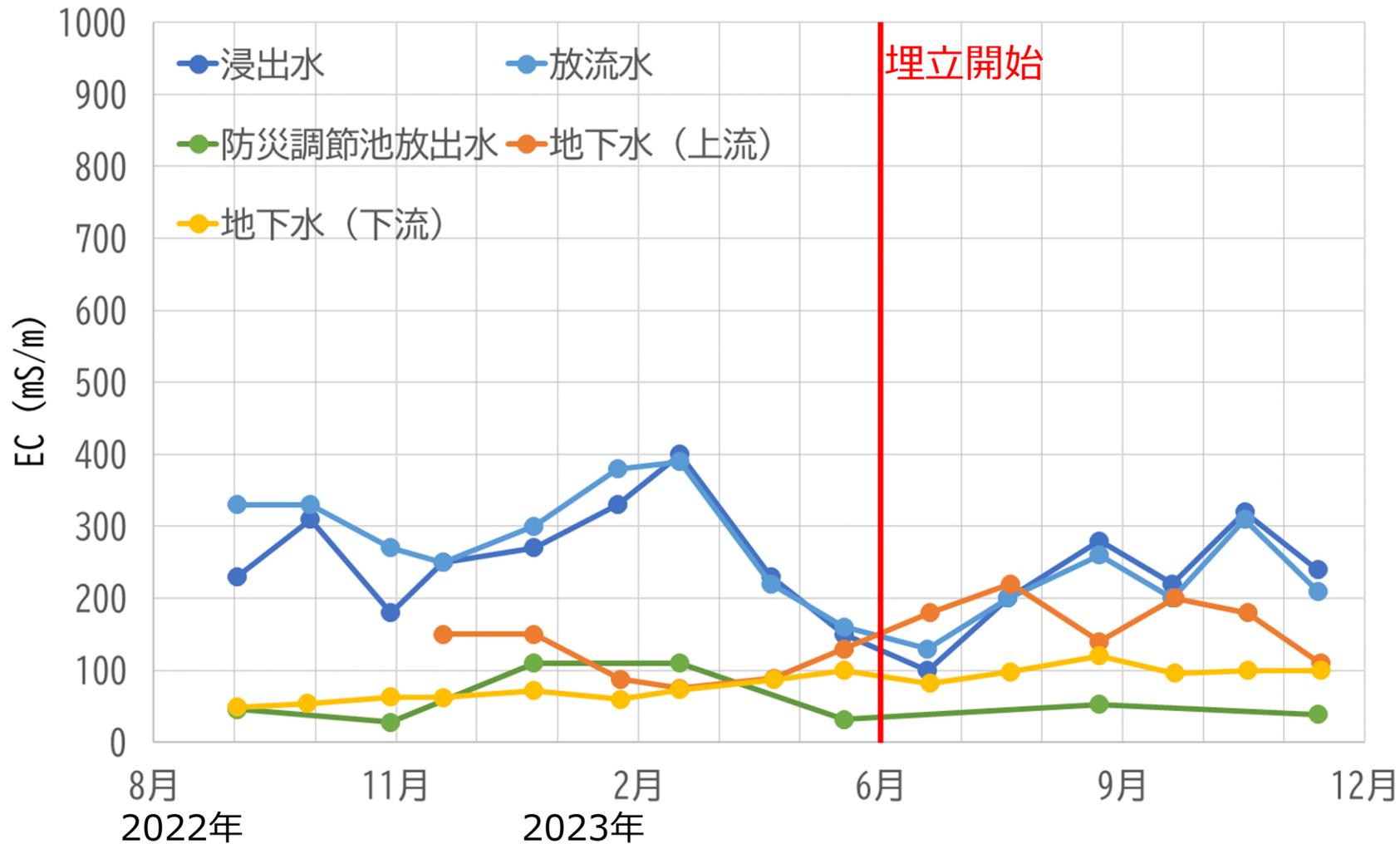


※詳細データはこちらからご確認ください

([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([防災調節池放出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

([浸出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([放流水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

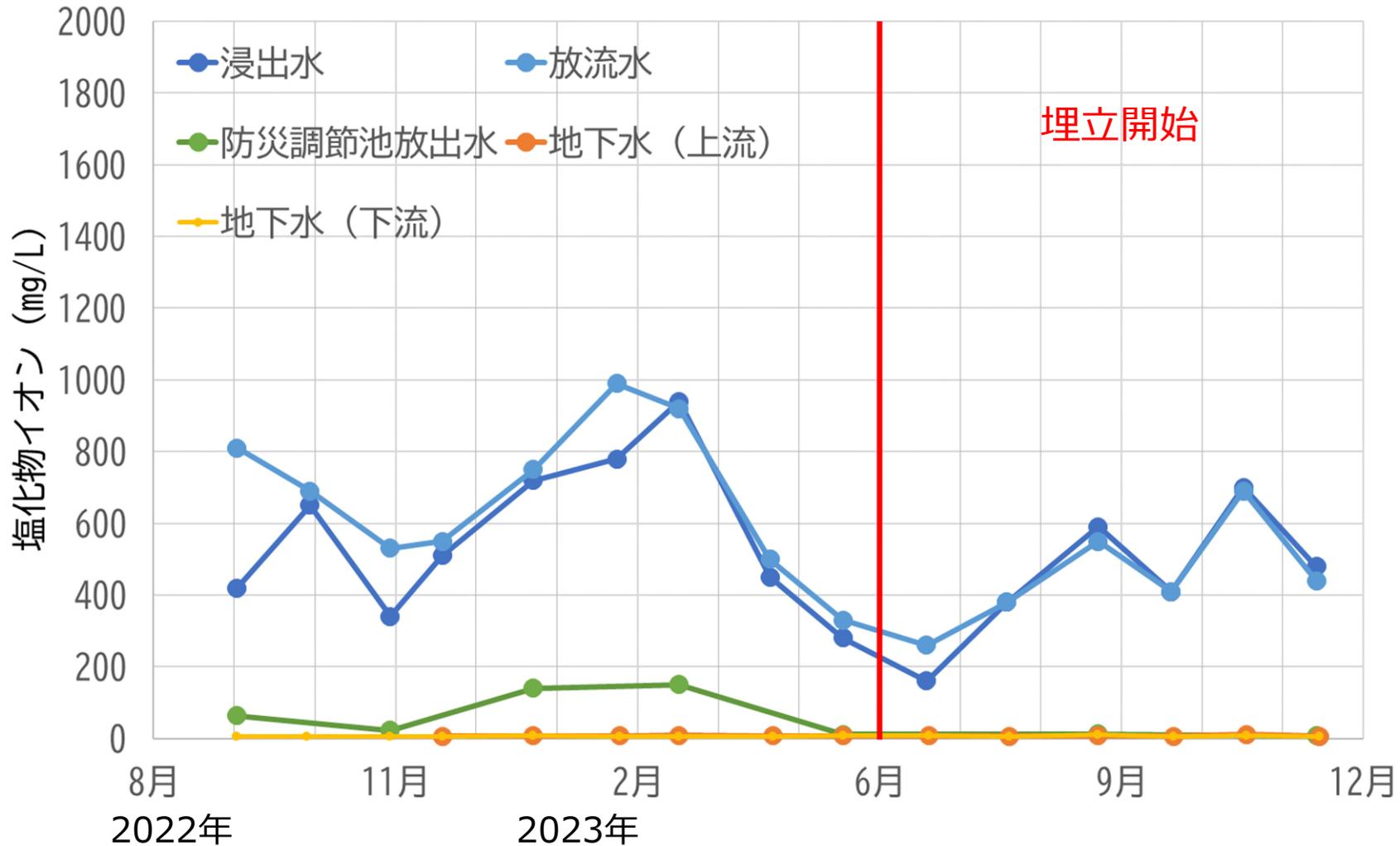
電気伝導率 (EC) は、概ね過去の値の変動範囲内でした。



※詳細データはこちらからご確認下さい

([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([防災調節池放出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))  
([浸出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([放流水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

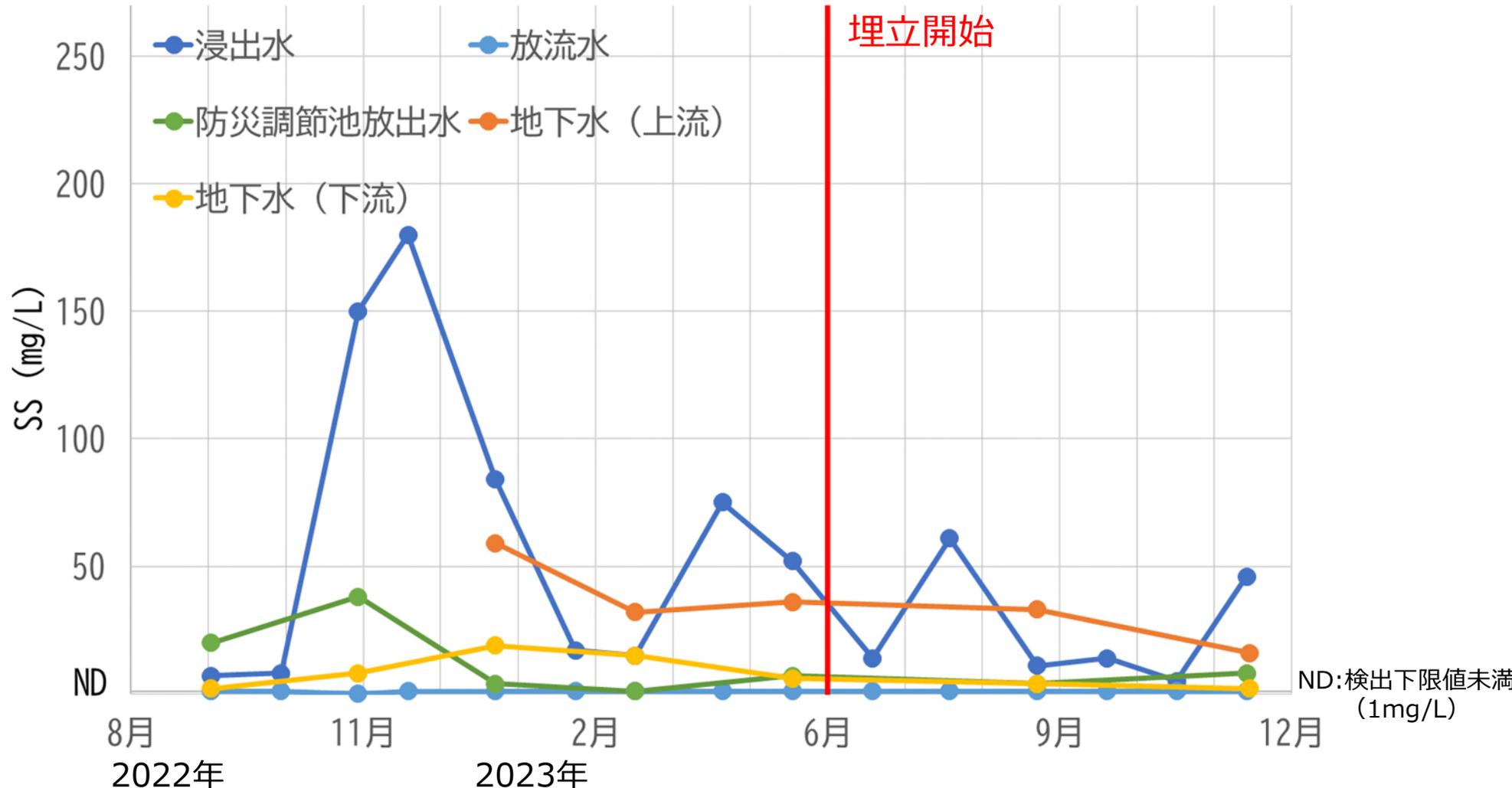
塩化物イオン濃度は、概ね過去の値の変動範囲内でした。



※詳細データはこちらからご確認下さい

- ([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))
- ([防災調節池放出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))
- ([浸出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))
- ([放流水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

浮遊物質質量 (SS) は、概ね過去の値の変動範囲内でした。



※詳細データはこちらからご確認ください

([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([防災調節池放出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

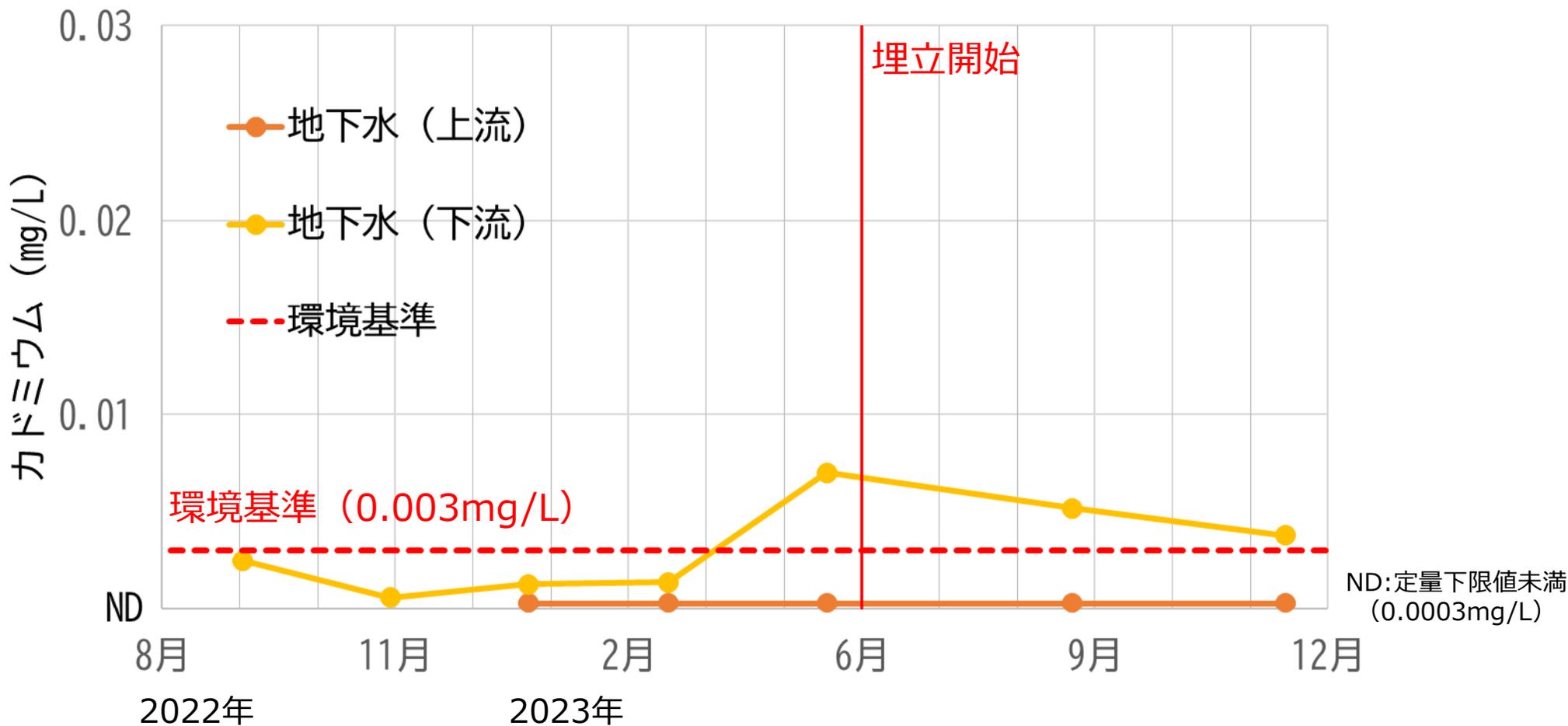
([浸出水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)) ([放流水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

- P8～12で取り上げた項目以外で特筆すべき項目として、カドミウムとふっ素では、埋立開始前から地下水環境基準を超過した値が確認されています。継続的に注視していくため、次ページ以降にグラフで結果を示します。
- その他の測定結果は、以下より確認いただけます。
- その他の測定結果
  - 粉じん：[粉じんの調査結果 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)
  - 悪臭、河川水水質、騒音振動：[環境モニタリング結果（詳細） \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)

# カドミウム

地下水下流（C-2）では地下水環境基準を超過するカドミウムが、埋立開始前の5月測定より継続して確認されています。

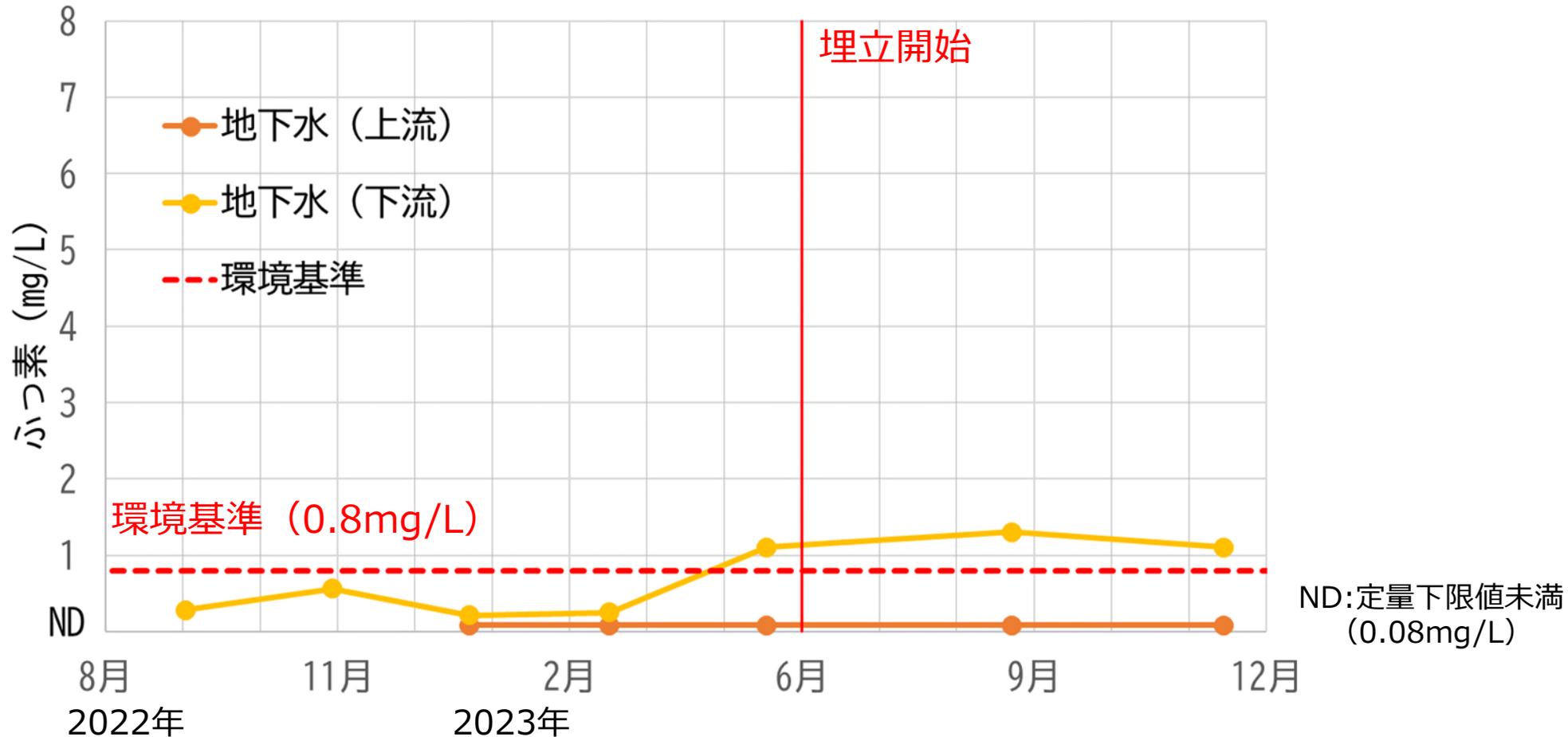
追加調査の結果、これらは自然由来である可能性が高いと思われます。有識者の御意見を伺いつつ引き続き動向を注視して参ります。



※詳細データはこちらからご確認下さい  
([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))

地下水下流（C-2）では地下水環境基準を超過するふっ素が、埋立開始前の5月測定より継続して確認されています。

追加調査の結果、これらは自然由来である可能性が高いと思われます。有識者の御意見を伺いつつ引き続き動向を注視して参ります。



※詳細データはこちらからご確認下さい  
([地下水の水質 \(env.go.jp\)](http://env.go.jp))